

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 1 区分

【発行日】平成 18 年 10 月 12 日 (2006.10.12)

【公開番号】特開 2000-239059 (P2000-239059A)

【公開日】平成 12 年 9 月 5 日 (2000.9.5)

【出願番号】特願 平 11-247327

【国際特許分類】

C 0 4 B 35/195 (2006.01)

B 0 1 J 20/16 (2006.01)

B 0 1 J 35/04 (2006.01)

【F I】

C 0 4 B 35/16 A

B 0 1 J 20/16

B 0 1 J 35/04 3 0 1 P

【手続補正書】

【提出日】平成 18 年 8 月 28 日 (2006.8.28)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】請求項 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項 1】 コージェライト体の作成方法において、前記方法が：

a) タルク、 Al_2O_3 生成源、並びに 1 種以上のカオリン、か焼カオリン、およびシリカ成分を含み、必要に応じてスピネルを添加した、コージェライト形成原材料を選択し；ここで前記タルクの平均粒径は約 $3.0\ \mu m$ 以下であり、前記 Al_2O_3 生成源の平均粒径は約 $2.0\ \mu m$ 以下であって、存在すれば、前記カオリンの量は、前記カオリンの平均粒径が約 $2.0\ \mu m$ 未満の場合に、前記原材料の約 35 重量% 未満であり；

b) 前記原材料を有効量のビヒクルおよび成型補助剤と均質にブレンドして、前記原材料に可塑的成型適性および生強度を付与して前記原材料の可塑性混合物を形成し；

c) 前記原材料を成型して未焼結体とし；

d) 前記未焼結体を乾燥し；

e) 前記未焼結体を約 1370 ないし 1435 の温度で焼成する；

各工程を含み；

前記タルクの平均粒径が約 $2.0\ \mu m$ 未満であり、前記 Al_2O_3 生成源の量が前記原材料の約 20 重量% 未満であって、平均粒径が約 $0.3\ \mu m$ 未満の分散性大表面積 Al_2O_3 生成源が、存在すれば、前記原材料の約 5.0 重量% 未満を構成し、前記カオリンの平均粒径が約 $2.0\ \mu m$ 未満の場合には、1150 から 1275 の間の昇温速度が約 200 / 時より大きく；

前記タルクの平均粒径が約 $2.0\ \mu m$ 以上であり、前記 Al_2O_3 生成源の量が前記原材料の約 20 重量% 未満であって、平均粒径が約 $0.3\ \mu m$ 未満の分散性大表面積 Al_2O_3 生成源が、存在すれば、前記原材料の約 5.0 重量% 未満を構成し、前記カオリンの平均粒径が約 $2.0\ \mu m$ 未満の場合には、1150 から 1275 の間の昇温速度が約 50 / 時より大きく、かつ約 600 / 時より小さく；

前記 Al_2O_3 生成源の量が前記原材料の約 20 重量% 未満であり、平均粒径が約 $0.3\ \mu m$ 未満の分散性 Al_2O_3 生成源が前記原材料の約 5.0 重量% 以上を構成し、前記カオリンの平均粒径が約 $2.0\ \mu m$ 未満の場合には、1150 から 1275 の間の前記昇温速度が約 50 / 時より大きく；

前記カオリンの平均粒径が約 $2.0\ \mu m$ より大きい場合には、1150 から 1275

の間の昇温速度が約 6 0 0 / 時より小さく、かつ約 3 0 / 時より大きく；

実質的に約 4 9 重量%ないし 5 3 重量%の SiO_2 ，3 3 重量%ないし 3 8 重量%の Al_2O_3 ，および 1 2 重量%ないし 1 6 重量%の MgO からなる組成を有し；2 5 ~ 8 0 0 における平均熱膨張係数が $4 \times 10^{-7} \sim 1$ 以下であり、約 0 . 5 μm から 5 . 0 μm の間の直径を有する細孔の数が全細孔数の約 8 5 % 以上であるか、あるいは 2 5 ~ 8 0 0 における平均熱膨張係数が $4 \times 10^{-7} \sim 1$ より大きいが $6 \times 10^{-7} \sim 1$ 以下であり、多孔率が約 3 0 体積% 以上であって、約 0 . 5 μm から 5 . 0 μm の間の直径を有する細孔の数が全細孔数の約 8 5 % 以上であるかのいずれかの特性を有するコーゼライト体を作成する；
ことを特徴とする方法。